

2018年3月期 第3四半期決算説明における質疑応答の概要

(2018年2月6日(火)、東京)

【グループ全体】

Q. 中計に対する設備投資の進捗について教えてほしい。

A. 今期の設備投資は2Q時点で見直しを行い288億円の見込となっている。3Qまでの実績124億円を差し引くと残り164億円になるが、実施時期が遅れるものもあり、4Qで全て消化することにはならないと見ている。一方で、フロン対応などの基盤整備への投資や加工食品のライン投資は計画通り今期に発生する見込である。なお、来期の計画については現在策定中であり、5月の決算発表時に改めて発表する。

【加工食品】

Q. 家庭用調理品は3Qも引き続き好調に推移しているように見える。家庭用のマーケットの状況や貴社でどのような商品が貢献したのかなど、もう少し詳しく教えてほしい。また、春の新品で期待できそうなものがあれば教えてほしい。

A. マーケットは引き続き堅調に推移している。当社においては、「特から」などのチキン加工品や「本格炒め炒飯」などの米飯類が増収に大きく寄与している。今春の家庭用の新品は計8品。商品コンセプトは、「力強いカテゴリー政策の推進」と「新規需要の創造への挑戦」。目玉はGFP Tニチレイで生産する「切れてる！サラダチキン」である。既にカットされた状態になっているので、料理でより簡便に使用いただける商品となっている。3月に発売予定である。

Q. 下期において、関係会社の業績影響額で9億円の減益を見ていたが、3Qまでの状況を教えてほしい。

A. 下期で前期比▲9億円に対し、3Qではほぼ経過期間に沿って出ていると捉えている。パーツ高に加え、タイ国内の鶏肉原料の上昇が影響している。

Q. 昨年8月からタイのGFP Tニチレイの第5加工ラインが稼働したが、業績への影響について教えてほしい。

A. 現地は第3四半期にあたり、稼働してからまだ一か月程度の状況である。従って、第3四半期の業績に与える影響は軽微である。

Q. 冷凍食品の競争環境について教えてほしい。

A. 例えば3Qで当社は米飯類が好調だったが、マーケットで上位の会社を見るといずれも売上を伸ばしている。従って、市場の中でパイを取り合っているというよりも、市場自体が引き続き拡大していると捉えている。冷凍食品に対する消費者の評価も引き続き高まっていると認識している。

【低温物流】

Q. 平和島DCは3月の稼働に向けて準備が順調に進んでいるということだが、稼働後すぐに貨物が埋まると考えてよいのか。もう少し詳しく教えてほしい。

A. 出来るだけ速やかに貨物が埋まるように、他社のアセットもうまく活用しながら集荷を進めてきており、今のところ特段懸念はしていない。

以上

※当文書は当日の質疑応答内容をすべて記録したのではなく、株式会社ニチレイが編集を加えております。